後、Y防協の存在を警察本部生活安全部に認めてもらうことができ、次々と「防犯覚書」の締結が進みました。「防犯覚書」の締結に至る最大の決め手は、発行部数が頭抜けている読売本紙に警察の防犯チラシを折り込むことができるというメリットにありました。YCの頼もしさを感じたのは、私だけではなかったと思います。

一方、防犯セミナーは、2006年(平成18年)からスタートしました。セミナー講師陣の人選では、警視庁生活安全部に多大なる支援を頂戴しました。防犯セミナーの今日があるのも、こうした強い支援・連携体制があったからこそといっても過言ではないでしょう。中でも腹話術人形を駆使して参加者に直接被害防止を訴える防犯セミナーは大好評でした。また、社会問題としてクローズアップされた「ケータイ・インターネット」の犯罪被害防止においては、インターネット専門家を講師陣に加えました。同セミナーでは、「より分かりやすく」をテーマに、パワーポイントを活用して被害に遭遇する実例を解説、中学・高校の関係者から、特に感謝されました。

最後になりますが、私が在職した5年間は、今のY防協の形成期であったような気がします。現在奮闘されているY防協スタッフの皆様、講師陣の皆様には、犯罪の多様化に伴って、その防止法をセミナーに取り込んでいくことに苦労されていることと思いますが、どうか「世のため、人のため」――に頑張ってください。

Y防協にさらなる期待をかけます!

佐藤　福次郎さん
元参与・2012年退職／警視庁OB

設立10周年、おめでとうございます。10年続けば、防犯ボランティア団体として立派な大人ですね。

私は2007年(平成19年)に読売新聞東京本社に入社しました。今でこそ、全国47都道府県警察本部とY防協は「防犯覚書」を締結していますが、私の入社時は、46都道府県警察本部との間で防犯協定の締結ができていたものの、唯一、沖縄県警だけは未締結でした。大げさにいえば、沖縄県警との「防犯協定締結」は、Y防協事務局の悲願だったのです。沖縄県以外の警察本部との防犯協定の締結は、2006年(平成18年)までに終えていたわけですから、私の入社は、正に悲願達成の切り札だったはずです(笑)。なぜかと言えば、私の妻の郷里が沖縄県なのです。そこで妻の実家に帰省するたび、沖縄県警を訪ね人間関係づくりに精を出しました。そして、2008年(平成20年)6月、ようやく防犯協定を締結するに至りました。私のY防協生活における最も思い出深い出来事の一つです。

卒業して初めてわかるのですが、〈高齢化社会・日本〉では、地域に密着した様々な活動が社会を支える原動力になると思います。なぜなら、地域の方々との人的交流なしには、とても暮らしにくい世の中になりつつあると実感するからです。「向こう三軒両隣」という言葉が、また復活するかもしれません。時代の流れを読むと、Y防協の未来は、特に高齢者の方々に、今まで以上に期待される立場にあるものと私は確信します。Y防協の皆さん、頑張ってください!

思い出は、体験型防犯セミナーの構築――

柏田　榮文さん
元参与・2013年退職／警視庁OB

Y防協が、全国組織として発足してから10周年の区切りを迎えられたとのこと――。心からお喜び申し上げます。そのうちの5年間、微力ながらY防協の一員として働くことができ、大変光栄に思っております。

全国の警察本部との防犯協定に基づいて、「YCの地域貢献活動を支援する」のが主な職